

令和7年 稲作情報 総括号

令和7年12月10日発行 宮城県亘理農業改良普及センター

電話 0223(34)1141 FAX 0223(34)1143 ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/site/wrnk/>

1 気象経過

(4月)

4月は低気圧や前線の影響により曇りや雨の日が多かった。また、暖かい空気が流れ込む日が多かったため、月平均気温は平年より高くなかった。

(5月)

5月は上旬と下旬を中心に低気圧や前線の影響により曇りや雨の日が多かった。特に31日は、低気圧の影響により激しい雨が降った。

(6月)

6月は高気圧に覆われて晴れて気温の高い日が多かった。月平均気温はかなり高く、月降水量はかなり少なく、月間日照時間はかなり多かった。なお、東北南部の梅雨入りは6月23日頃（平年より11日遅い）となった。

(7月)

7月は高気圧に覆われて晴れる日が多かった。月平均気温はかなり高く、月降水量はかなり少なく、月間日照時間はかなり多かった。

なお、東北南部の梅雨明け7月18日頃（平年より6日早い）となった。

(8月)

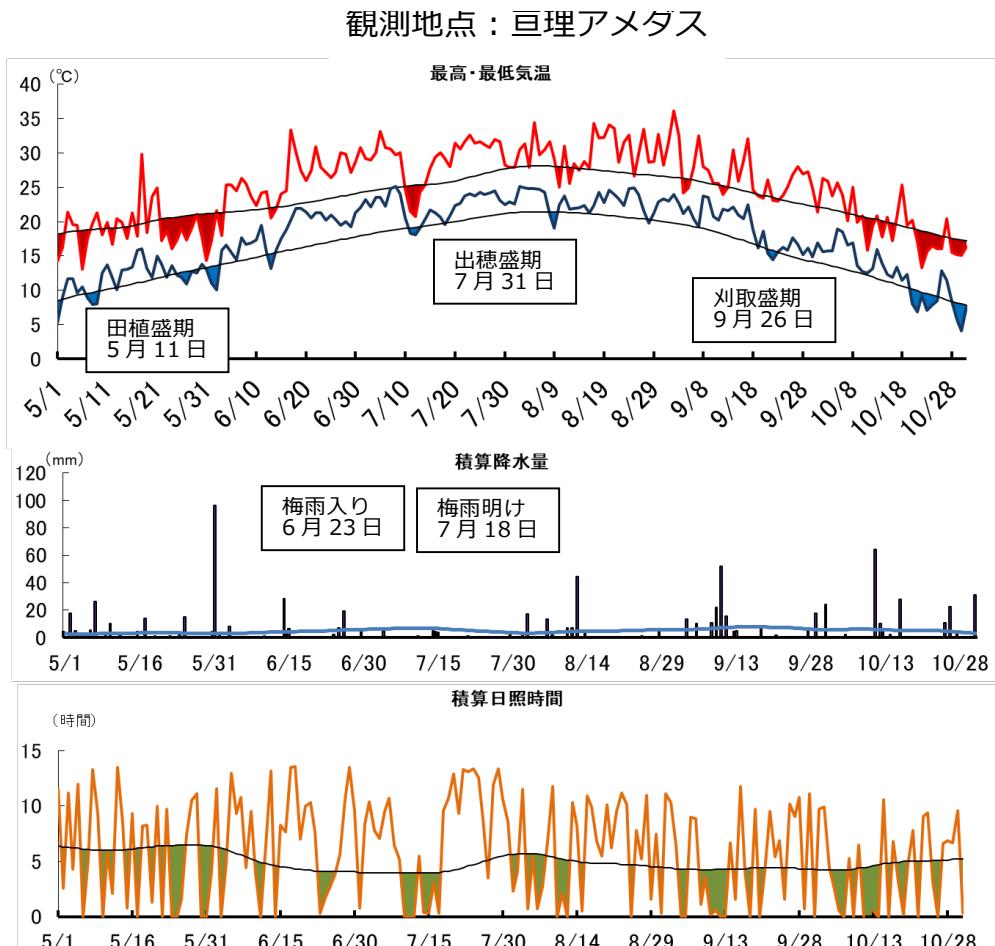
8月は高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、前半は台風や前線、低気圧の影響により曇りや雨の日が多かった。

(9月)

9月は前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。2日は亘理で日最高気温が観測開始以来最も高くなった。

(10月)

10月は、天気は周期的に変化した。気温は、上旬は平年より高かったが、下旬は寒気の影響により平年よりかなり低くなかった。



2 管内(名取市、岩沼市、亘理町、山元町)の播種・田植・出穂・刈取状況

	播種	田植	出穂	刈取
始期(5%) 平年差	4月6日 (3日遅い)	5月5日 (1日遅い)	7月27日 (平年並み)	9月14日 (3日早い)
盛期(50%) 平年差	4月13日 (2日遅い)	5月11日 (1日早い)	7月31日 (平年並み)	9月26日 (3日早い)
終期(95%) 平年差	4月20日 (3日早い)	5月23日 (平年並み)	8月3日 (4日早い)	10月13日 (1日早い)

※平年値は、過去5年間の平均値

- ・田植盛期は、5月11日（平年より1日早い）となりました。
- ・出穂盛期は、7月31日（平年並み）となりました。
- ・刈取盛期は、9月26日（平年より3日早い）となりました。

3 気象による生育・収量への影響

時期	日平均気温 (°C)	積算降水量 (mm)	積算日照時間 (時間)	生育・収量への影響
5月	15.3 (平年差+0.3)	201.5 (平年比200%)	177.7 (平年比92%)	<ul style="list-style-type: none"> ・上旬と下旬を中心に低気圧や前線の影響により曇りや雨の日が多かった。特に31日は、低気圧の影響により激しい雨が降った。 ・下旬の低温等の影響から生育が遅れ気味となった。
6月	21.8 (平年差+3.1)	77.5 (平年比58%)	217.0 (平年比150%)	<ul style="list-style-type: none"> ・高気圧に覆われて晴れて気温の高い日が多かった。月降水量はかなり少なく、月間日照時間はかなり多かった。 ・梅雨入りは6月23日と平年より11日遅かった。 ・高温・多照で経過し、生育は回復した。
7月	25.6 (平年差+3.2)	18.5 (平年比10%)	227.7 (平年比169%)	<ul style="list-style-type: none"> ・高気圧に覆われて晴れる日が多かった。月降水量はかなり少なく、月間日照時間はかなり多かった。 ・出穂盛期は7月31日（平年と同じ）となった。 ・高温で経過したことから斑点米カメムシ類の発生が早くなつた。
8月	26.4 (平年差+2.5)	97.5 (平年比66%)	180.8 (平年比116%)	<ul style="list-style-type: none"> ・高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、前半は台風や前線、低気圧の影響により曇りや雨の日が多かった。気温は平年よりかなり高かった。 ・高温で経過したことから穗いもちの発生は少なかつた。
9月	23.0 (平年差+2.4)	160.0 (平年比76%)	154.6 (平年比119%)	<ul style="list-style-type: none"> ・出穂後の積算平均気温による刈取時期の判定では、出穂後高温で経過したこと、中生品種の適期は出穂後36~43日（通常は40~45日）の9月4日~11日と判定した。 ・しかし、雨天の日が多かったため、刈取が思うようにできず、刈取始期は9月14日、刈取盛期は9月26日となつた。 ・一部ほ場では、倒伏がみられた。
10月	15.6 (平年差+0.5)	196.5 (平年比119%)	124.7 (平年比85%)	<ul style="list-style-type: none"> ・10月上旬になると降雨日も少なく刈取は順調に進んだ。 ・刈取終期は10月13日（1日早い）となつた。

※日平均気温、積算降水量、積算日照時間はアメダス（亘理）

4 生育調査ほの概要

1 移植栽培の生育概況

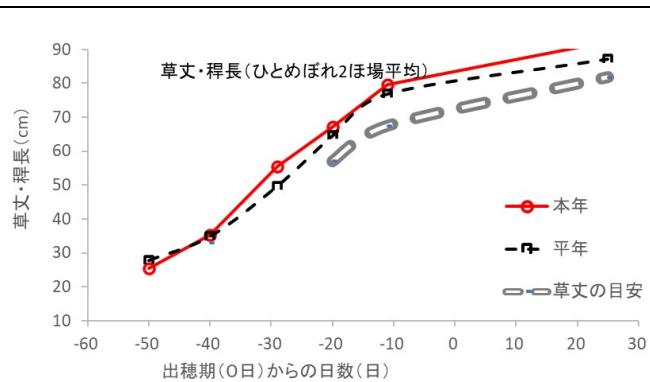


図1 草丈・稈長（ひとめぼれ2ほ場平均）の推移

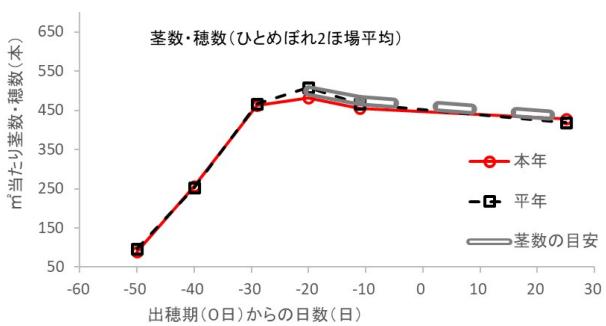


図2 茎数・穂数（ひとめぼれ2ほ場平均）の推移

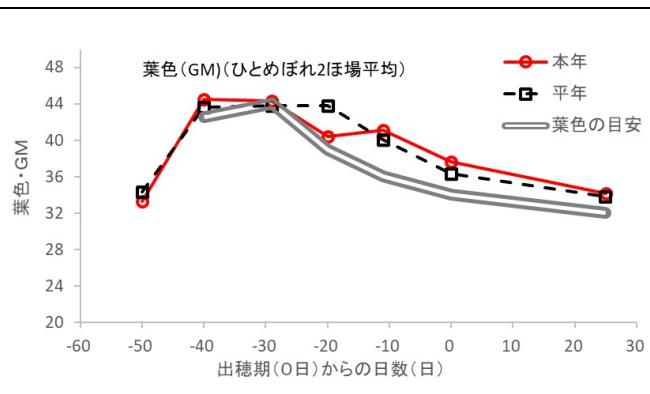


図3 葉色(GM)（ひとめぼれ2ほ場平均）の推移

「ひとめぼれ」

- ・草丈は、目安値をやや上回って推移し、稈長は長くなりました(図1)。
- ・茎数は、5月下旬に低温があったものの大きな影響はなく、生育全般でほぼ目安どおりとなりました(図2)。
- ・葉色は、目安値をやや上回って推移しました。しかし、出穂前30日から出穂前20日(幼穂形成期)にかけて平年より大きく葉色が低下しました(図3)。

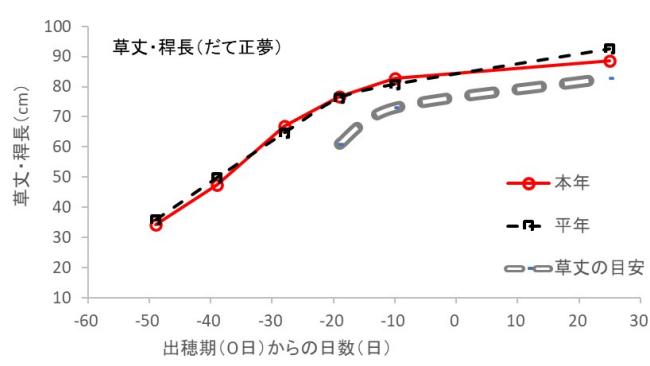


図4 草丈・稈長（だて正夢）の推移

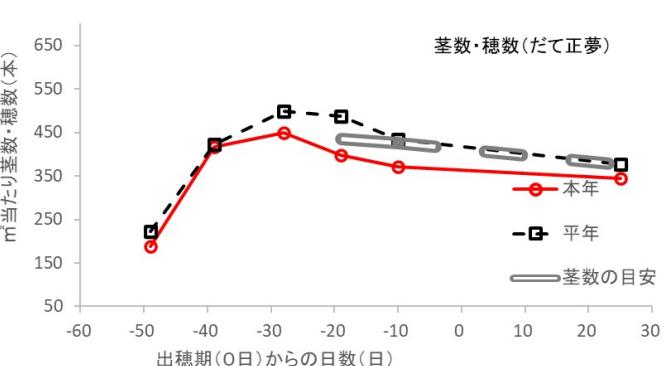


図5 茎数・穂数（だて正夢）の推移

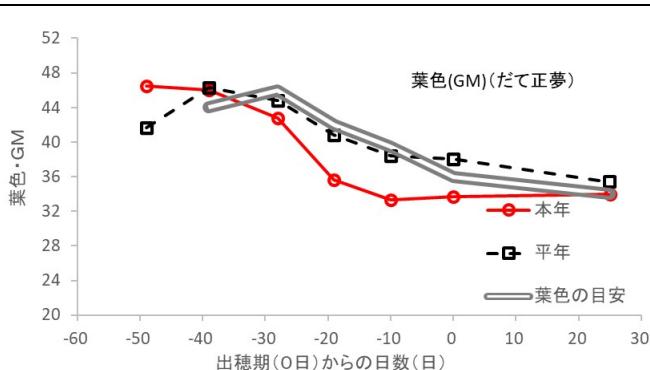


図6 葉色(GM)（だて正夢）の推移

「だて正夢」

- ・草丈は、目安値をやや上回って推移し、稈長は長くなりました（図4）。
- ・茎数は、目安値を下回って推移しました。また、平年より早く茎数の減少が見られました（図5）。
- ・葉色は、目安値を下回って推移しました。特に、出穂前20日ころに葉色の低下が大きになりました(図6)。

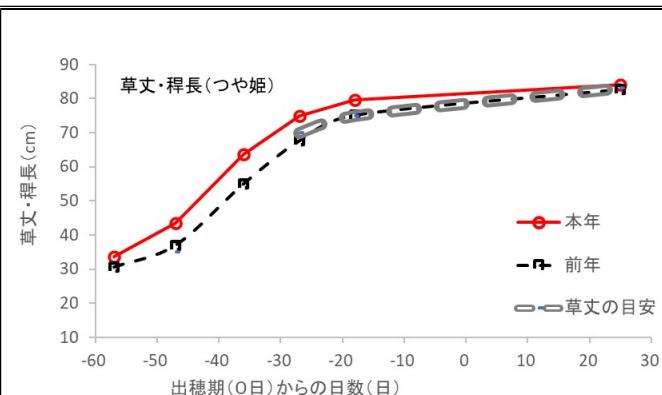


図7 草丈・稈長（つや姫）の推移

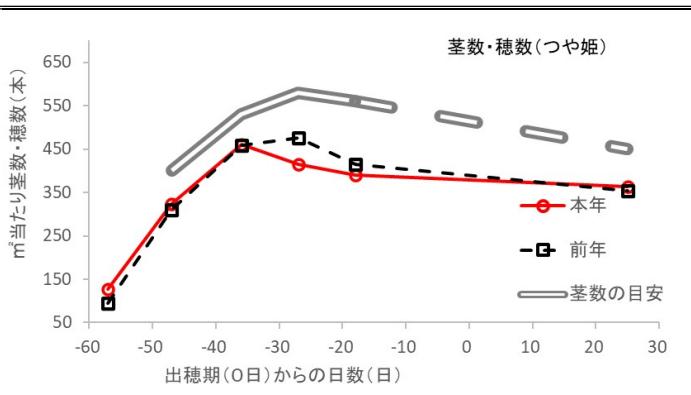


図8 茎数・穂数（つや姫）の推移

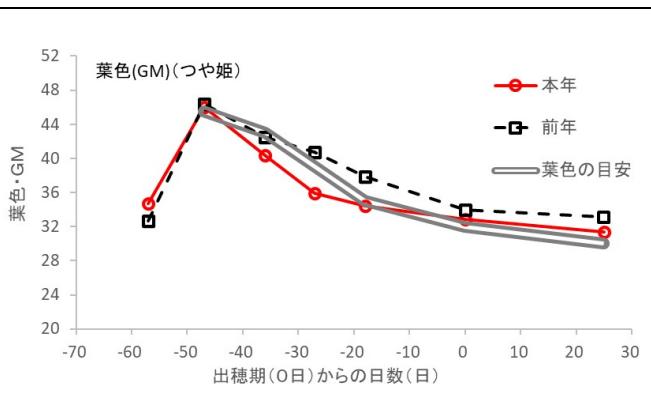


図9 葉色(GM)（つや姫）の推移

「つや姫」

- ・草丈は、概ね目標どおりに推移しました（図7）。
- ・茎数は、目標よりも下回って推移しました（図8）。
- ・葉色は、出穂前40日から30日かけて目標を下回ったがその後は概ね目標どおり推移しました（図9）。

2 移植栽培の収量調査

表1 収量調査（移植栽培）

No	品種	調査地点		田植日	出穂日	成熟期	収量調査 (1.9mm以上)						<参考> 倒伏 程度(%)
							穂数 (本/m ²)	一穂粒数 (粒/本)	m ² 粒数 (千粒/m ²)	登熟歩合 (%)	玄米千粒重 (g)	精玄米重 (kg/10a)	
1	ひとめぼれ	名取市	本年値 平年比・差	5月18日	7月31日 2日早い	9月7日 4日早い	395 99%	83.1 118%	32.8 117%	73.5 -12.0	22.8 101%	551 106%	0.4 -
2	ひとめぼれ	山元町	本年値 平年比・差	5月18日	7月30日 3日早い	9月8日 3日早い	474 108%	89.4 108%	42.4 117%	65.4 -8.7	22.6 102%	627 110%	1 -
	ひとめぼれ	2ほ場平均	本年値 平年比・差	5月18日	7月30日 3日早い	9月7日 4日早い	435 103%	86.3 112%	37.6 117%	69.5 -10.3	22.7 102%	589 108%	0.7 -
3	つや姫	岩沼市	本年値 前年比・差	5月15日	8月6日 土〇日	9月17日 4日遅い	348 106%	72.5 97%	25.2 103%	93.1 7.8	21.7 100%	511 113%	0 -
4	だて正夢	亘理町	本年値 平年比・差	5月7日	7月29日 2日早い	9月11日 土〇日	344 91%	96.1 106%	33.0 96%	91.1 12.0	20.3 102%	610 112%	0 -
5	にじのきらめき	岩沼市	本年値 平年比・差	5月15日	8月13日 -	9月29日 -	433 -	92.1 -	39.9 -	56.3 -	23.0 -	517 -	0.3 -

平年値は、No. 1、2、4は、過去5か年の平均値。No. 3は、令和6年度からのため平年値なし。No. 5は今年度からのため、平年値なし。

<参考> ひとめぼれ収量構成要素目標(移植)	
m ² 当たり穂数	410~460本
1穂粒数	60~70粒
m ² 当たり粒数	28~30千粒
登熟歩合	85~90%
玄米千粒重	22.3g
10a当たり収量	550kg

収量は1.9mm以上の玄米

※「宮城県稲作指導指針基本編(平成31年3月)」から

<参考> だて正夢収量構成要素目標(移植)	
m ² 当たり穂数	350~400本
1穂粒数	85~95粒
m ² 当たり粒数	30~34千粒
登熟歩合	75~85%
玄米千粒重	21~21.5g
10a当たり収量	540kg

収量は1.9mm以上の玄米

※「宮城県稲作指導指針基本編(平成31年3月)」から

<参考> つや姫収量構成要素目標(移植)	
m ² 当たり穂数	400~440本
1穂粒数	73~75粒
m ² 当たり粒数	30~33千粒
登熟歩合	75~80%
玄米千粒重	22.0g
10a当たり収量	510~540kg

収量は1.9mm以上の玄米

※「宮城県稲作指導指針基本編(平成31年3月)」から

「ひとめぼれ（2ほ場平均）」 平年に比べ

- m²当たり穂数：並み
- 一穂粒数：多い
- m²当たり粒数：多い
- 登熟歩合：低い
- 千粒重：並み
- 収量：多い

「だて正夢」

平年に比べ

- m²当たり穂数：やや少ない
- 一穂粒数：並み
- m²当たり粒数：やや少ない
- 登熟歩合：高い
- 千粒重：並み
- 収量：多い

「つや姫」

目標に比べ

- m²当たり穂数：少ない
- 一穂粒数：並み
- m²当たり粒数：少ない
- 登熟歩合：高い
- 千粒重：並み
- 収量：並み

3 乾田直播の生育ステージ、収量調査

(1) 生育ステージ

- ・播種は、移植栽培の作業が本格的に始まる前の、4月上旬を中心に行われました。
- ・ m^2 当たり苗立本数は73本/ m^2 と目標をやや下回りました。
- ・乾田直播栽培におけるひとめぼれの出穂期は8月3日で、移植栽培の出穂期より4日程度遅くなりました。
- ・乾田直播栽培におけるひとめぼれの成熟期は9月14日で、移植栽培の成熟期より7日程度遅くなりました。

(2) 収量調査

表2 収量調査（乾田直播栽培）

No	品種	調査地点		播種月日	出穂期	成熟期	収量調査（1.9mm以上）					参考 倒伏 程度（%）	
							穗数 (本/ m^2)	一穂粒数 (粒/本)	m^2 粒数 (千粒/ m^2)	登熟歩合 (%)	玄米千粒重 (g)		
1	ひとめぼれ	岩沼市	本年値 前年比・差	4月9日	8月3日 5日遅い	9月14日 5日遅い	430 136%	77.2 112%	33.2 153%	75.0 -14.1	22.4 98%	558 126%	0.5 —

令和6年度からの調査のため、平年値なし。

<参考> ひとめぼれ収量構成要素目標（乾田直播）	
m^2 当たり穂数	400～450本
1穂粒数	65～70粒
m^2 当たり粒数	28千粒前後
登熟歩合	80～85%
玄米千粒重	23.0～23.5g
10a当たり収量	480～540kg

収量は1.9mm以上の玄米

※「宮城県稻作指導指針基本編（平成31年3月）」から

「ひとめぼれ」

目標に比べ

- m^2 当たり穂数：並み
- 一穂粒数：やや多い
- m^2 当たり粒数：やや多い
- 登熟歩合：やや低い
- 千粒重：やや低い
- 収量：並み

図3 県・作柄表示地帯別 10a 当たり予想収量（10月25日現在）
(生産者が使用しているふるい目幅ベース)

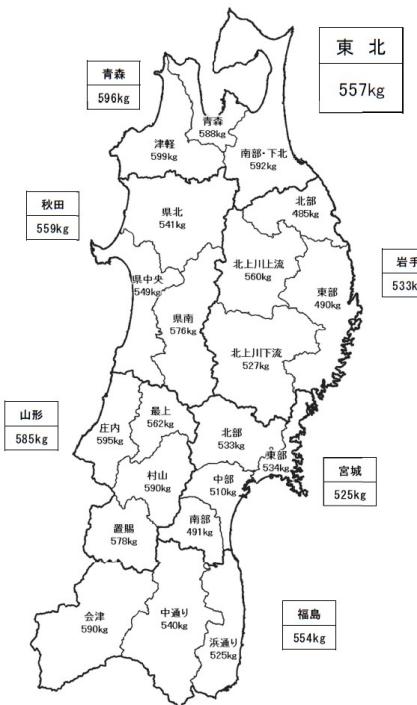
5 令和7年産水稻の作柄概況 (宮城県全体)

東北農政局 令和7年10月25日現在

【結果】

10月25日現在における10a当たり予想収量(生産者が使用しているふるい目幅ベース)は、田植後の低温により全もみ数が少ないとなったことから、前年産に比べ25kg減少の525kgと見込まれる。

作況単収指数は99と見込まれる。



うるち玄米1等米比率(東北6県) 10月末現在 農林水産省 11月28日公表

青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	東北6県平均
92.0%	96.8%	93.4%	92.5%	93.3%	92.1%	93.1%

※JAグループ以外の農産物検査結果を含む。

6 令和7年産水稻の品質 (宮城県全体)

- 10月末日現在におけるうるち玄米の1等米比率は93.4%（前年同期89.8%）でした。
- 品種別での1等米比率は、ひとめぼれ95.6%、ササニシキ74.2%、つや姫95.7%、まなむすめ93.7%、だて正夢99.3%でした。
- 2等以下への落等の主な要因は、心白・腹白粒を含む形質が最も多く49.5%、斑点米力メムシ類による着色粒36.4%、穂発芽や胴割れなどの被害粒8.4%でした。

7 水稻の品質低下の要因

(1) 白未熟粒 (心白、腹白、背白、基部白等)

- 白未熟粒 (心白、腹白、背白等) の発生は、開花5~15日の高温条件下で助長され、出穗後20日間の平均で最高気温32℃、日平均気温が27~28℃、最低気温23~24℃を超えると多発するとされており、特に、夜温が高いと稲の消耗が激しくなり発生が助長されるとされています。本年は、出穗後20日間の日平均気温が27℃を下回ることが多かったことや最低気温が23℃を下回ることが多かったことから、背白・基部白粒の発生が少なかったとみられます（図10、11）。

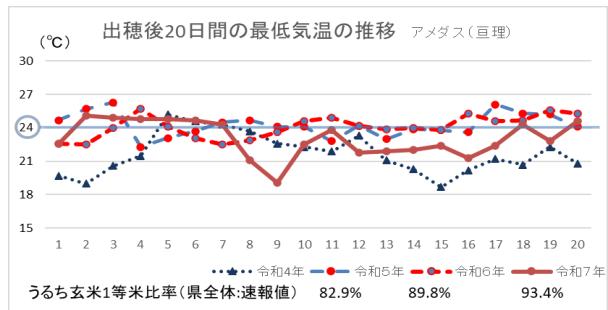


図10 出穂後20日間の平均気温の推移 アメダス(亘理)
令和4年度、5年度、6年度の比較

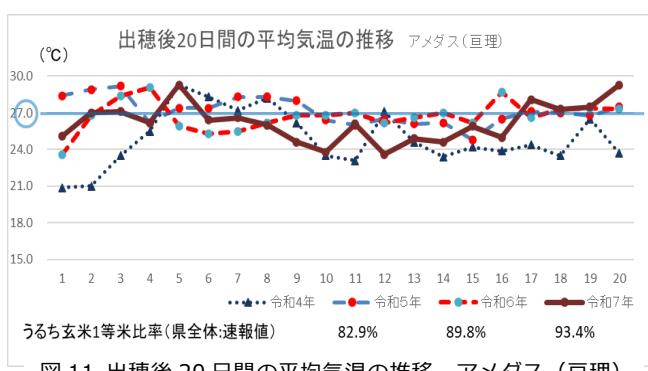


図11 出穂後20日間の平均気温の推移 アメダス(亘理)
令和4年度、5年度、6年度の比較

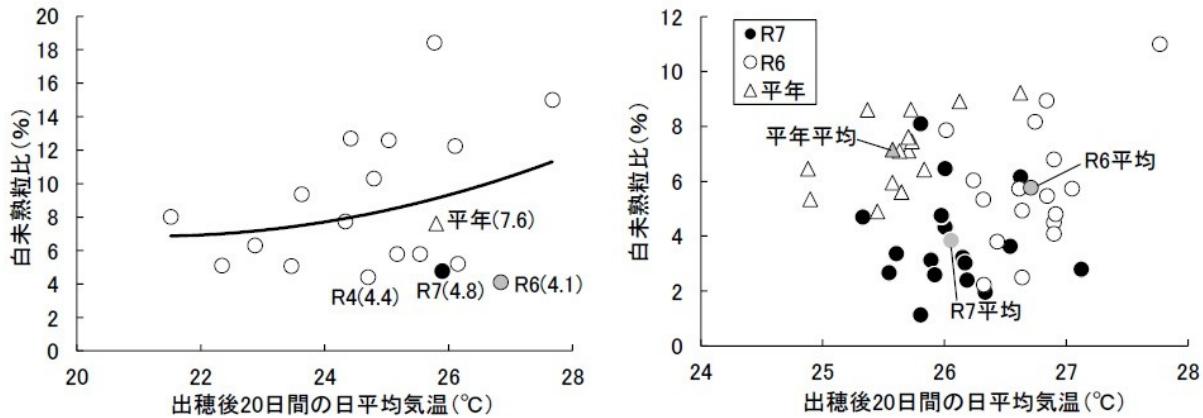


図 12 出穂後 20 日間の日平均気温と白未熟粒比の関係（左図：作況試験ほ 5月 9 日移植「ひとめぼれ」、右図：生育調査ほ「ひとめぼれ」）

注 1) 平年は、過去 5か年の平均。

2) 左図（作況試験ほ 5月 9 日移植「ひとめぼれ」）は H20～R7 のデータで、近似線に平年は含まない。日平均気温は古川アメダスのデータによる。

3) 右図（生育調査ほ「ひとめぼれ」）の地点数は、R7 が 18、R6 が 17、平年が 14。日平均気温は調査地点近傍のアメダスデータによる。

※乳白粒（心白粒）とは：出穂後 10～15 日頃登熟初期に、一時的にデンプンの集積が悪くなることで発生する。充実が劣った部分には隙間ができ、これが光を乱反射して白濁して見える。高温条件下では玄米の生長が速く、養分競合が大きくなり発生する。さらに、m²当たり粒数が多いほど発生が増える。また、台風通過に伴う乾風の影響や低日照による養分競合により発生する場合もある。

※背白粒・基部白粒とは：登熟が進んだ出穂後 20 日頃に背側（胚のない側の縁）、基部のデンプン集積が悪くなり、白濁して見える。乳白粒に比べ気温との関係性が強く、出穂後の平均気温・最低気温との相関が高いとされ、高温により玄米の同化産物受け入れ能力が早期に低下することで発生すると考えられる。さらに、登熟期の窒素不足で発生が増える。

(2) 斑点米カメムシ類による着色粒

- 本県における斑点米カメムシ類の重要種はアカスジカスミカメですが、県南部を中心にクモヘリカメムシ等の大型カメムシの発生が平年より多く確認されました(図 13)。
- 本年度は、高温で推移したことにより斑点米カメムシ類の発生が早く、発生量も多くなりました(図 14)。

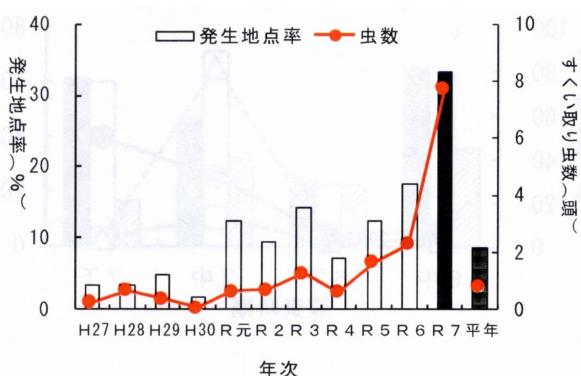


図 13 クモヘリカメムシの発生地点率及びすくい取り虫数の推移
(本田、8月中旬)
(令和 7 年宮城県病害虫防除所)

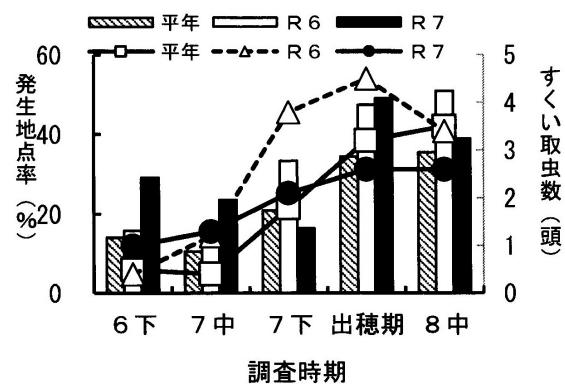


図 14 アカスジカスミカメ成虫の発生地点率及びすくい取り虫数の推移(本田)
※棒グラフ：発生地点率
折れ線グラフ：すくい取り虫数
(令和 7 年宮城県病害虫防除所)

- ・アカスジカスミカメ等小型のカメムシは玄米の頂部を加害しますが、クモヘリカメムシは無差別加害となります（図 15、16）。



図 15 カスミカメムシ類による加害痕
左：頂部加害、中：くさび、右：側部加害
(宮城県病害虫防除所)



図 16 大型のカメムシ類による加害痕
(宮城県病害虫防除所)

8 病害虫の発生状況 (宮城県病害虫防除所)

(1) いもち病 (葉いもち：平年並、穂いもち：やや少ない)

- ・6月中旬、7月中旬に気温が平年を下回り、雨天の日もあったことから、亘理アメダステータから感染好適条件が出現しました（6/11、26、7/15、19）。
- ・7月は降水量がかなり少なく、平均気温も高かったことから、管内での発生はほとんど確認されませんでした。
- ・葉いもちの発生が少なかったことに加え、出穂後に高温日が続いたことから、感染に不適であったため、穂いもちの発生は平年よりやや少なくなりました。

(2) 紹枯病 (多い)

- ・7月及び8月の降水量は平年を下回ったものの周期的に降雨があったため、紹枯病菌の水平進展が見られ、9月上旬の発病株率は平年よりやや多くなりました。（図 18）
- ・発病度は、平年よりやや高くなりました。また、一部では、止葉葉鞘まで発病が確認されるほ場もありました。

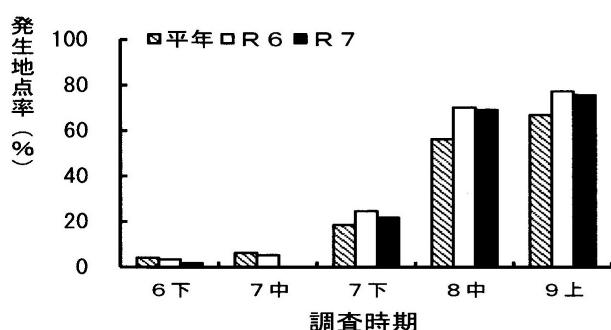


図 17 紹枯病発生地點率の推移
(令和 7 年宮城県病害虫防除所)

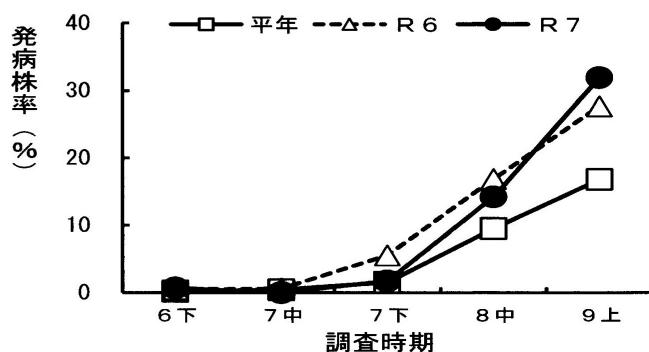


図 18 紹枯病発病株率の推移
(令和 7 年宮城県病害虫防除所)

(3) 斑点米カメムシ類 (本田：やや多い)

- ・斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）の発生盛期は各世代とも平年より早まりました（越冬世代成虫 6月第4半旬（早い）、第1世代成虫 7月第3半旬（早い）、第2世代成虫 8月第2半旬（やや早い））。
- ・県南部を中心にクモヘリカメムシ等の大型カメムシの発生が平年より多く確認されました。

9 令和8年産に向けての対策

(1) 土づくり

堆肥や土づくり肥料（ようりんやケイカル等）を施用し、地力を高め、稲体や根の活力を高め、穂揃期まで葉色を維持しましょう。

(2) 晩期栽培、晚生品種等による品質向上

ひとめばれ、だて正夢等中生品種の晩期栽培（田植え5月15～25日）、直播栽培や晚生品種（つや姫）の利用により出穂期を遅らせ、高温登熟を回避しましょう。

(3) 適正な栽植密度、肥培管理

粒数過剰で発生する乳白粒の抑制に向け、 m^2 当たり粒数2.8～3万粒を目標に、ほ場に合った栽植密度、植付本数を設定しましょう。

登熟後期の窒素不足により発生する背白粒や基部白粒の抑制に向け、減数分裂期に追肥をするなど穂揃期の葉色を下げないようにしましょう。

(4) 適切な水管理

出穂後の高温条件下では白未熟粒や胴割粒の発生を軽減する水管理をしましょう。

①用水が確保できる場合は、昼間はできるだけ深水、夜間は落水しましょう。

②用水が確保できない場合は、飽水管理をしましょう。

※飽水管理とは…自然減水で田面の水がなくなり、溝や足跡の底に水が溜まっている箇所が散見されるようになったら、かん水する水管理のこと。

(5) 病害虫の防除対策

1) いもち病

箱施用剤の施用量を順守し、予防防除に努めましょう。あわせて、ほ場をよく観察し、必要があれば、本田での防除を行いましょう。

2) 紹枯病

減収率5%を許容水準とすると、要防除水準は、穂ばらみ期の発病株率が中生品種で15%程度、晚生品種で20%程度です。防除水準を確認しながら、必要に応じて薬剤防除を実施しましょう。

3) 斑点米カメムシ類

箱施用剤の施用量を順守しましょう。地域一斉の草刈りは効果的です。また、ほ場内にヒエやイヌホタルイなどの残草が無いようにしましょう。

クモヘリカメムシ等大型カメムシが発生している地域では、本田での薬剤の追加防除も検討しましょう。

(6) 適期収穫

ひとめばれ、だて正夢の収穫期の目安は出穂後の積算平均気温1,000℃となった頃です。積算平均気温と合わせて、粒の熟色、粒水分等から総合的に判断し、適期刈取りに努めましょう。